

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



今回で5回目の黄金崎のマツ再生プロジェクト。中間総括では小川眞先生から「元気になっている」との評価。

### Contents

- 第24回総会のご案内 ..... P 2
- GEN 自然と親しむ会のご案内 ..... P 3
- 5月宇久須合宿のご案内 ..... P 4
- 大同緑化25年の軌跡 ..... P 6

2018.3

180

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



# 認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク 第 24 回総会のお知らせ

GEN の活動は今年で 27 年目を迎えます。おかげさまで昨年度から新たにスタートした河北省張家口市蔚県での活動は無事 1 年目の活動を終えることができました。日本からのボランティアツアーが現地を訪れて現地の人と一緒に植樹に汗を流し交流を深めました。

2018 年度は蔚県での活動 2 年目を迎えます。大同のときのようにものがとがすんなり進むことは難しいですが、活動を重ねるごとに徐々に互いの理解を深めていけるでしょう。2018 年度

は従来の砂漠化が進む地域の緑化活動にあわせて、新たに植物見本園の建設を予定しており、準備を進めています。蔚県での GEN の新たな取り組みをみなさんに知ってもらうためにも、ぜひ総会にご参加いただき、ご意見をお聞かせください。

今回の総会の記念講演は、速水林業の代表を務めておられる林業家の速水亨さんをお迎えします。速水さんは国際的な環境管理林業の認証である FSC 認証を日本で初めて取得し、環境に配慮した持続可能な林業経営をお

こなっており、今回の講演ではこれらの取り組みなどについてお話しいたします。

会員のみなさんには後日資料をお送りします。

- \* \* \* \* \*
- 【緑の地球ネットワーク 第 24 回総会】
- 日程：2018 年 6 月 16 日（土）13 時 30 分～16 時 40 分
- 会場：大阪市立西区民センター第 4 会議室（大阪市西区北堀江 4-2-7 tel. 06-6531-1400 地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅下車すぐ）
- 記念講演：13 時 30 分～15 時
- 講師：速水亨さん（速水林業代表）
- 会員総会：15 時 20 分～16 時 40 分
- 総会終了後に懇親会を予定しています。

## 淀川の自然環境を通じて見えてくるもの

宮本 敏幸 (GEN 世話人)

2 月 22 日、green なんでも勉強会「淀川の改変と環境保全」を開催し、高田直俊さんに淀川のあれこれについてお話していただきました。20 名が参加しました。

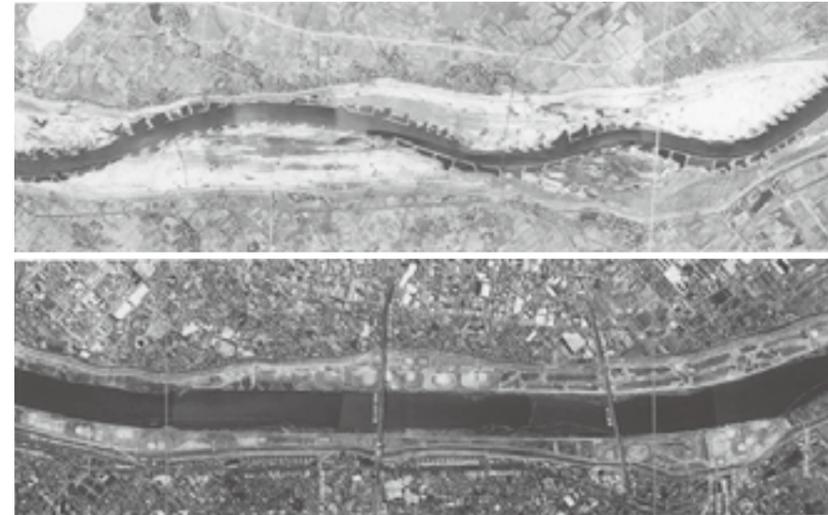
わたしと淀川との関係は

①淀川の水→柴島・寝屋川の両浄水場→大阪市民の水道水

②居住している港区は、淀川が運んだ土砂の上でできており、戦後は淀川支流の安治川の土砂を水ごと汲み上げ、

水を抜き、たびたび水害に見舞われた港区を 3 m くらいかさあげして今日がある。

③ 30 年くらい前だが、淀川の三川（桂川・宇治川・木津川）合流地点あたりで、大水の後、土器拾いが趣味というマニ



淀川中流域（枚方大橋～鳥飼大橋間付近）1960 年と 1977 年の航空写真（淀川環境委員会提供）水路の拡幅・直線化・高水敷の平坦化（寝屋川付近の河川改修前と現在）

アックな友人が教えてくれた水たまりで、数十匹の鯉を投網で獲ったことがある。

④毛馬の閘門の下手で、鰻やにごいを釣ったり、腕の太さほどあるどでかい鰻を引っかけに行ったことがある。などである。

今回の高田先生の『淀川の改変と自然環境』という講義は、淀川との関わりに、縦糸・横糸を通して、自然環境の歴史の変遷を教えていただいた。

とりわけ、1997 年からの淀川環境委員会の設置以降、水域・陸域・汽水域・構造の各環境部会と各種のワーキンググループの設置は、淀川へのアプローチの仕方の多様性を反映していて、割と気楽に誰もが私の淀川を語ったり、イベントに参加できるものといえるようだ。

ただ、ここに至る過程は一朝一夕のものではなく、1970 年代初頭にいわれた日本列島改造に象徴されたように、まさにブルドーザー的な破壊と人造自然の歴史であったと言えるのだろう。鳥・樹木・魚など、それぞれの分野からの切り口は面白い。高田先生は筆筆のリードにもなる「ヨシ」や「オギ」の生態と保全を多くの写真を使って語られた。また、野鳥の休憩場（ア

## 参加者募集 GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑥ エドヒガンのお花見

昨年から実施し、好評をいただいている前中代表と歩く「野の道」シリーズを 2018 年度も実施します。毎回、前中久行 GEN 代表の植物にまつわる話を聞きながら、自然観察をおこなっています。初めてのかたもぜひお気軽にご参加ください。

今回は能勢妙見山とその周辺を歩きながら、野生のエドヒガンのお花見な

どを楽しみます。ピンク、白、薄紅のさまざまな花色が楽しめます。妙見山周辺をハイキングしながら春の訪れを感じてみませんか。

○日時：4 月 7 日（土）9 時 35 分～14 時ごろ

○集合：9 時 35 分に能勢電鉄「妙見口」駅

○持ち物：動きやすい服装・靴、帽子、

弁当、飲み物、敷物、雨具、あれば植物図鑑

○案内：前中久行さん（GEN 代表）

○参加費：500 円（保険料を含む）

○定員：20 名

○問合せ・申込み：4 月 4 日（水）までに GEN 事務所まで氏名、連絡先、生年月日をお知らせください。

## 参加者募集 GEN 自然と親しむ会 泉佐野丘陵緑地郷の棚田活動 懐かしい作物や花などを植えて楽しむ

関西空港の対岸にある泉佐野丘陵緑地は園内の一角に棚田があり、それを利用して市民参加の活動をおこなう「郷の棚田プログラム」に 2016 年から GEN も参加しています。これまでにアワ、キビなど近年見られなくなった懐かしい作物や、大同でおなじみの黄花草などを植え育て、来園者の目を楽しませてきました。

今年も引き続きこのプログラムに参加し、棚田での作業をおこなうほか、園内の自然観察を楽しみます。

○日時：5 月 12 日（土）10 時～14 時

ごろ

○場所：大阪府泉佐野市上之郷 90 番地 tel. 072-467-2491)

○集合：10 時 07 分に泉佐野丘陵緑地パークセンター前（9 時 40 分発の南海電鉄「泉佐野」駅発、9 時 56 分発の JR 阪和線「日根野」駅発のコミュニティバスに乗ると 10 時 07 分に「泉佐野給料緑地パークセンター」に到着します）

○案内：前中久行さん（GEN 代表）

○参加費：500 円（保険料を含む）

○定員：20 名程度

○持ち物：弁当、飲みもの、敷物、雨具、帽子、タオル、軍手、動きやすく汚れてもいい服装、靴でお越しくください。

○申込み：5 月 9 日（水）までに氏名、生年月日、連絡先を GEN 事務所までご連絡ください。

## GEN 自然と親しむ会 今後の予定

○前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑦北山緑化植物園を訪ねる（兵庫県西宮市北山町 1-1）

○日程：6 月 2 日（土）

※詳細は次号でご案内します。

## 参加者募集 2018 黄土高原 スタディツアー 予告

8 月のスタディツアーの日程が決定しました。

大同には行ったけれど蔚県にまだ行ってないかた、大同のときとはひと味もふた味も違う蔚県でのツアーですのでこの機会にぜひご参加ください。

○日程：2018 年 8 月 25 日（土）～30 日（木）（5 泊 6 日）

○訪問地：中国河北省張家口市蔚県県（北京経由）

○費用：未定（昨年実績 178,000 円）

○定員：30 名程度

○最少催行人員：12 名

※詳細は 5 月号でご案内します。



### 今後の回復に期待、黄金崎のマツ

川島 和義 (GEN 世話人)

2月25日、宇久須まちづくり協議会主催の「第5回 黄金崎のマツ・再生プロジェクト」がおこなわれました。IVUSA (国際ボランティア学生協会)、GEN が共催しており、GEN からは4名が参加しました。

西伊豆町の宇久須地区まちづくり協議会は、GEN 会員の藤原國雄さんを中心に5年前から黄金崎のマツの再生に取り組んでいる。

実動部隊としてIVUSA (国際ボランティア学生協会) が共催団体として関わっており GEN 顧問の小川眞さんが技術指導を行っていることもあり、GEN の協力事業のひとつになっている。

今年は、2月25日(日)に第5回のプロジェクト事業が行われるとのことで、関西から高見さん、宮本さん、わ



毎回 IVUSA の学生たちが大活躍

たし川島の3名と、GEN 関東ブランチから立教大学の上田さんが参加した。

前日にはIVUSA が主催するまちづくりのイベントが行われるとのことで、宮本さんとわたしと上田さんは、前日24日から現地に行き、午後に会場の廃校になっている田子中学校を訪れた。

まちづくりイベントは、地元の方言カルタ取りやステージでのダンス(?)等が行われた。また、現地で作られているヤーコンを使った料理の試食コーナーがあり、キンピラ、マーボー丼、中華丼、豚汁、スイーツ等が準備されていた。すべて上手く調理されており、甲乙付け難いものだったが、人気投票ではキンピラが1位になったようである。IVUSA は、この前日(23日)にヤーコンの植え付けを行っている。

25日は、朝から合流した高見さんも加わり、IVUSA の学生(100人余)や現地の人々と共に黄金崎で松林内の清

掃・松葉かきと松苗の植栽(一部実生の移植)を行った。

午後には宇久須の防災センターで小川眞さんを講師に迎え、5年間の成果の確認と総括をする集まりが持たれた。炭を入れて菌根菌と共生させることでマツは元気を回復してきており、枯れるものは枯れて新たに植えたマツも育ってきているとのことで、今回で一区切りとし、しばらく様子を観ることになった。

小川さんは、年寄り「近頃の若い者は…」などと言いがちだが、スコップの持ち方もぎこちなかった若者があげた成果を見て、逆に将来に希望を持つものだという趣旨の感想を述べられた。

西伊豆海岸の景色を眺め、温泉に浸かり、潮カツオ丼やタカアサガニなどを味わった楽しい旅行であった。

#### 訂正とお詫び

前号の「第5回黄金崎のマツ・再生プロジェクト」の案内に誤りがありました。日程を3月25日(日)と記載しましたが、正しくは2月25日(日)でした。訂正してお詫び申し上げます。

植) 5月13日(日)午前 再生休耕田での作付け(サトイモ・サツマイモなど)

○申込み・問合せ: 上田信まで電子メールでご連絡ください。(ueda@rikkyo.ac.jp) 件名を「西伊豆合宿」とし、人数と代表者の携帯電話番号を明記してください。

○申し込み締切: 2018年4月末日



#### 参加者募集

### GEN 関東ブランチ 西伊豆5月合宿

GEN 関東ブランチ主催の西伊豆合宿を今年もおこないます。シカの食害と強酸性という難問に挑戦する芝山(硅石採掘跡地)の緑化に取り組んでいます。恒例の5月合宿では、ドローンの操作を体験する企画も。ぜひご参加ください。

○日時: 5月11日(金)夕方~13日(日) 昼ごろ

○場所: 静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須 交通費は自己負担。

以下は東京からの交通手段です。

- 1) 高速バス(新宿-修善寺)+路線バス
- 2) JR 東海道線(東京-三島)+伊豆箱根鉄道+路線バス

3) 自家用車(東名沼津インターから1時間半) 駐車料金不要

中部、関西方面からは清水-土肥のフェリーを利用する方法もあります。

○費用: 大人8,000円、中高生6,000円、小学生以下無料

○内容: 5月11日(金)17時集合。カネジョウ(海鮮BBQ)で結成式。

5月12日(土)午前 カーネーション団地でのシキミの実生の採集 昼食 牧場の家でお弁当(おにぎり)。昼食後にドローン体験。午後 芝山での緑化プロジェクト(実生シキミの移

## 年末寄付にご協力いただき どうもありがとうございました

### おかげさまで11月1日~1月5日の間に 1,282,159 円の寄付が集まりました

本当は前号でご報告しなければいけなかったのですが、遅くなってしまったことをお詫びいたします。年末寄付のご報告とお礼です。

11月号で年末寄付のお願いをしたところ、11月1日から1月5日までの間に1,282,159円(70件)のご寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。

前年同時期が2,087,958円(80件)だったので、80万円あまりの減少です。その前年、2015年度は1,354,903円(100件)でしたから2016年度が多かったともいえますが、件数も減っているの

事務局の力不足を感じています。2月末時点でのご寄付は5,347,815円(230件)で、前年の6,140,079円(303件)と比しておよそ80万円の減少です。予算710万円に対しては約175万円のマイナスで、今年度の予算達成は厳しそうです。重ねがさねで恐縮ですが、可能な方は、ご寄付、新規ご入会などお力添えをお願いいたします。

Tポイントカードをお持ちの方は、Yahoo! ネット募金からTポイントを寄付することができます。 <https://donation.yahoo.co.jp/detail/5009001/> からよろしく願いいたしま

す。GEN のサイトからもリンクしていますのでご利用ください。



## いままぐできる GEN への協力

- 会員の輪をひろげよう! 緑の地球ネットワーク会費(年額)
 

一般会費	12,000円
家族会費(同居の家族2人目から)	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員(中学生以下)	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

 ※会費は会報購読料を含んでいます。
- 会報を購読してください! GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料2,000円。
- 緑化基金、運営寄付もとむ 金額は自由です。また、緑化基金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。\*緑化基金の20%は事務管理費になり

- ます。
  - 絵はがき『黄土高原の花』 8枚組・300円(送料別途。5セット以上送料無料)
  - 書き損じはがきを集めています 書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。
  - 未使用切手・古切手を集めています 普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。
- ボランティア募集 会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN から連絡します。

\* \* \* \* \* 【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】 緑の地球ネットワークは大阪市に認

定された認定NPO法人です(期限は2019年4月8日まで)。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくはGENまでご連絡ください。



# 大同緑化協力 25 年の軌跡 小学校付属果樹園

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で7回目です。(高見邦雄)



小学校付属果樹園のきっかけになった小学校の校舎

大同での緑化協力の特徴的な事業に小学校付属果樹園があります。きっかけは偶然のことでした。共青团雁北地区委員会の劉懷光副書記と靈丘県を訪れたとき、彼の用件につきあって、上寨鎮下寨北村の小学校を訪れたのです。都市の人たちの寄付金で貧しい村の教育を支援する「希望工程」の事業で、小学校を建て替えるというのです。

その村の1人あたり年間所得は230元ということでした。1元=26円の当時のレートでも6,000円を切ります。1990年代の大同の農村はほんとうに貧しかった。そして小学校がすごい！零下20℃にもなるのに、窓は障子張りでポロポロ。教室は裸電球が1つあるだけで薄暗く、1年生から3年生まで40人ほどを1人の先生が教えていました。4年生から上はどうしているかときくと、上級生が学ぶ学校は大きな村にしかなく、何人が通っているかわから



村の子どもはよく働く

ないと、その先生は答えました。村を歩くと、両親と野良仕事をしている子、弟妹の子守をしている子に出会います。「学校にいかないの？行きたくないの？」ときくと、走って逃げる子、うつむいて涙する子、いろいろですが、みな学校にいきたいのです。

このような地方で、地球環境のために木を植えましょう、などといっても、それは空言でしょう。緑化を目的とするNGOにできることはないだろうか。その晩に思いついたのが、小学校付属果樹園をつくり、収益が上がるようになったら、その7~8割は管理した農民の取り分とし、残りを学校に集めて教育支援につかってもらう、というものでした。農村の経済的自立をはかり、人材の育成に役立て、環境改善もはかるという欲張ったプロジェクトです。

ちょうどその年、環境事業団の地球環境基金の助成がスタートしました。その申請をしたところ、「果樹園をつくるのがなぜ環境保全なのか」という質問が返ってきました。それに答えるためにまとめたのが「環境破壊と貧困の悪循環」の概念で、果樹園はその解決に有効であることを示しました。黄土高原の砂漠化問題とそれへの対処法をめぐる基本的な考えがここから生まれたのです。

私たちは苗木代、労賃、管理費を渡すことにしたのですが、村の人た

ちは労賃を積み立て、ほかからも寄付を集めて、その年のうちに小学校を建て直しました。もう子供たちは寒い思いをしないで済みます。上寨鎮上寨南村では同じようにして給水設備をつくりました。1つのお金が村で回ることによって複数の効果をもたらすのです。

最初は失敗がつづきました。山にマツを植えるのにくらべ、果樹栽培ははるかに困難です。でも、プラスの面も多かったのです。果樹園づくりに取り組むことで、私たちと村の関係がずっと深まりました。小学校付属果樹園ですから、当然、子供たちも作業に参加することになります。たいていは水やりが仕事で、家からもちよったバケツや洗面器で植えたばかりの苗に水をかけて回るんですけど、ほんとに一生懸命なんですね。日本からのボランティアもそれがおおいに気に入って、リピーターが増える原因になりましたし、農家のホームステイもそのなかで実現しました。

その後、地球環境基金の加藤久和部長が大同のプロジェクトを視察し、その効果を高く評価して、追加の助成まで決まり、発足したばかりの緑色地球ネットワーク大同事務所は大同産の乗用車「雲崗」を手に入れ、活動力を飛躍的に強化しました。

その後、同じ靈丘県の上北泉村、渾源県の呉城村など、小学校付属果樹園を大成功させる村がでてきました。そうなるラクなんですね。新しくはじめる村の人たちに成功した村をみてもらい、さまざまな経験と教訓をきいてもらえばいいのです。成功の事例については、またの機会に書きましょう。

環境破壊と貧困の悪循環



## 黄土高原史話<87> 陰槃岡上に死す

谷口 義介 (GEN 会員)

前回のタイトルは「酈道元と楊銜之」としたが、兩人とくに前者のことは、とうてい一回だけには収まりきれず、そこで今回は酈道元の後半、さらにその次が楊銜之ということに。

さて、酈道元の著『水経注』渭水篇にいう。

「〔後〕漢の靈帝の建寧三年(A.D.170)に改めて都郷とし、段熲を封じて侯国とした。のち陰槃城を立てたが、その水は城にそって北に出ているので、世間ではこの水を陰槃水といっている。〔その水は〕また北に向かい漕渠をわたって、北のかた渭水に注ぐ。」(森・日比野・藤善・勝村訳)

いまの西安市の東、クルマで1時間ほど走ると、秦の始皇帝陵。近くに見える驪山の麓に華清池(玄宗・楊貴妃の驪山温泉)。その驪山から流れ出た小川が、北流して魚池水となり陰槃水となって、最後は渭水に注ぎ込む。陰

槃水の右岸が項羽と劉邦の会見で有名な鴻門。まさしくこのあたり、歴史とロマンの宝庫と申すべきところ(図参照)。

酈道元がこの辺を通ったのは、いつ頃のことか。渭水篇を含め『水経注』が成ったのは524年だが、何と3年後の527年、陰槃の包圍戦で壮烈な最期を遂げる。時に59歳。

524年、10年ぶりに官途に復したあと、525年、彭城(いまの江蘇省徐州)で手柄を立てて、御史中尉に栄進。

ところが、524に北方で勃発した六鎮の乱は、西方の鎮や南方の州まで巻き込んで拡大し、北魏の支配は大きく揺らいだ。このうち、西方の陝西・甘粛で六鎮勢力に呼応した叛徒を伐つべく中央より派遣された蕭宝夤は、527年、みずからも反乱に立ち上がる。

以前よりこの男を疑っていた政府は、さっそく酈道元を関右大使に任命し、



『水経注図』より

難事に当らせようとするが、この人選にはかねて道元に怨みをもつ一部王族の思惑がからんでいたようだ。それはともかく、

蕭宝夤は部将の郭子暉をやって、「道元を陰槃(槃) 駅亭に囲む。亭は岡上に在り、常に岡下の井を食(飲)む。既に囲まれ、井を穿つこと十余丈なるも水を得ず。水尽き、力屈す。賊遂に牆を踰へて入る。道元、其の弟道□・二子と俱に害せらる。道元、目を瞞らして賊を叱し、声を厲まして死す。」(『北史』列伝卷十五)

530年、反乱軍は敗北して関中は平定され、道元父子の遺体は都の洛陽に戻ってきた。

それにしても、なにゆえ岡の上に陣を布いたのか。高い所だと見通しは利くが、水が尽きるリスクがある。かの街亭の戦いが好例だろう。(正史『三国志』魏書卷17→小説『三国演義』第95回)。

酈道元は、『魏書』酷吏伝に載せられたように峻厳な行政官で、『水経注』を読めばわかるとおり博学の人。だが、兵法には通じていなかったように思われる。

### 参加者 募集

### GEN 関東フランチ

## 小石川植物園の自然観察会

昨年12月の運営懇談会で関東フランチでも自然と親しむ会をしよう！という声があがり、第1回目を小石川植物園でおこなうことになりました。GEN顧問でいつも植物や森林についてユーモアを交えながら教えてくださる桜井尚武さんの案内で、晩春から初夏に移り変わる植物園での自然観察を楽しみませんか。ぜひお気軽にご参加ください。

○日時：4月22日(日)9時45分～14時ごろ 途中参加の場合は入園後ご連絡ください。

○場所：小石川植物園(東京大学大学院理学系研究科付属施設)(東京都文京区白山3-7-1 都営地下鉄三田線「白山駅」A1出口より徒歩10分、東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」出入口1より徒歩15分、都営バス(上60)大塚駅～上野公園線「白山2丁目」下車徒歩3分)

○集合：9時45分に小石川植物園正門

○講師：桜井尚武さん(GEN顧問)

○参加費：500円(別途入園料が必要)

○持ち物：動きやすい服装・靴、弁当、飲み物

○問合せ・申込み：4月15日(日)までに関東フランチメーリングリストまたは宮下利江(e-mail: sinjuriejp@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

GEN会員以外にもご家族、ご友人の参加も歓迎します。

※小雨決行



ハッピーアースデイ  
大阪 2018

アースデイとは、地球のことを考え、行動する日のことです。大阪では学生主体でおこなっており、今回で12回目を迎えます。

○日時：3月24日(土) 11時～17時  
18時～19時 Before the EARTH HOUR (キャンドルナイト)

3月25日(日) 10時～16時

○場所：久宝寺緑地(大阪府八尾市西久宝寺323 tel. 072-992-2489) JR関西本線大和路線「久宝寺」駅より北へ徒歩10分、近鉄大阪線「久宝寺口」より西へ徒歩10分

○会場では環境に配慮し、使い捨ての食器ではなくリユース食器の使用を推奨しています。来場の際はマイ箸、マイ食器をお持ちください。

○主催・問合せ：ハッピーアースデイ大阪実行委員会 <http://www.happy-earthday-osaka.jp/>

○共催：都市公園久宝寺緑地指定管理共同体

○後援：大阪府、東大阪市、八尾市、八尾市社会福祉協議会、八尾市教育委員会

第28回  
自然観察インストラクター  
養成講座

地域で身近な自然観察会をひらくためのボランティアリーダーを養成する

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

講座です。

○日程：4月8日(日)～11月25日(日)  
全26回

○講師：石井実氏(大阪府立大学副学長・生命環境科学研究科教授)、佐藤治雄氏(大阪府立大学名誉教授)ほか

○参加資格：18歳以上。身近な自然を守るために何かやりたいと考えているかた。原則としてすべてのプログラムに参加できるかた。

○受講料：29,000円(教材費、保険料を含む。宿泊講座の宿泊費・食費等は別途必要)

○定員：20名(先着順)

○室内講座会場：大阪市立中央区民センター(地下鉄御堂筋線・中央線「堺筋本町」駅3号出口東に徒歩2分)

○申込み方法：ハガキまたはe-mailに氏名(フリガナ)、性別、年齢、住所、電話番号を明記し、下記まで。

○主催・問合せ・申込み：(公社)大阪自然環境保全協会 自然観察インストラクター養成講座係(〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: inst@nature.or.jp)

森林ボランティアリーダー養成講座

森林大学  
第34期生募集

○日程：4月11日～10月3日(全19回)

○内容：▼講座：18時45分～20時30

分大阪YMCA会館にて▼野外実習：いずみの森(泉佐野市)、少年自然の家(貝塚市)、箕面国有林、金剛山活動地ほか全6回

○講師：滝口敏行氏、山崎春人氏(森林インストラクター) 山本博氏(林業技士)ほか

○受講料：35,000円(野外実習の交通費、宿泊費が別途必要)

○定員：30名

○申込み・問合せ：4月9日までに下記まで NPO法人日本森林ボランティア協会(〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 tel./fax. 06-6376-8255 <http://www.npomori.jp> e-mail: mori@npomori.jp)

土佐文旦をどうぞ

土佐の春の香りをお楽しみください。

A 3-4L 5kg (6-9玉) 4,200円

B 2L 〃 (10-11玉) 3,700円

C L 〃 (12-13玉) 3,200円

倍量の10kg箱もあります。

送料 関西650円 関東860円 北海道1200円(20kgまで)

★ご注文は下記まで

【田中農園】

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 tel./fax. 0887-29-2500

e-mail: tanakan3@crocons.ocn.ne.jp

※売り上げの一部を寄付していただいていますので、ご注文時に一言「GENの紹介」と添えてください。